

令和6年度第2回指宿市地域公共交通活性化協議会議事要旨

1 日 時 令和6年12月18日（水） 13:30～14:55

2 会 場 ふれあいプラザなのはな館会議室1・2

3 参 加 者 井上 佳朗，石田 洋介（代理），永谷 真純，今村 勝博，鳩野 浩一郎，別府 竜人，臼山 正二，内藤 清則，今村 孝光，水流 美紀子，谷口 誠一，榊 登志幸，川畑 哲郎，末永 陽一，渡部 徹也，鴨崎 一郎，出島 雅彦，高田 博憲，岩林 茂樹，七夕 勝彦，鈴木 貴大
事務局：宮地 主税，中村 知裕，大小田 直人

※欠席者 宮崎 恵介，関山 智幸，福元 亮介

4 議事要旨

【報告】指宿市地域公共交通計画の進捗状況について

（以下、質問及び意見）

委 員 市民会館で開催される各種イベントのポスターにも、公共交通に関する情報を入れてほしい。

委 員 デジタルサイネージによるバス接近情報の提供は、かなり便利なものであるが、この他に、指宿市内で外国人観光客に対する対応は進んでいるか？

事務局 指宿駅の観光案内所では、外国語に対応できる職員を配置している。また、観光施設によってはスマートフォンや音声翻訳機を活用して意志疎通を図っている。市内の路線バスに関しては、バスロケーションシステムに対応しているので、バスの運行状況をリアルタイムで把握することができる。

【議案第1号】イッシーバスの一部運行休止に伴う代替運行について

（以下、質問及び意見）

委 員 今回代替運行を行うことによって、バスを一部運休された後も、現状の便数が確保されるという認識でよいのか。

事務局 お見込みのとおりである。

委 員 令和7年2月からは、この対応について事務局で調整して、運行の便数は維持されると思うが、今後考えておくべきは、令和7年度末までに、他の交通モードに転換していただきたいという要望がなされており、維持が困難であるという形がもう示されているということを考

えれば、令和7年度末までに、この代替運航を含め、タクシーへの転換といったところまで見据えた形の検討が必要である。

委 員 突発的に9名以上の乗車があった場合にはどうするのか。

事務局 今回のところは、これまで同様、続行便を出すといった対応については考えていない。¹

《議案可決》

【議案第2号】令和7年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について

(以下、質問及び意見)

委 員 計画変更にあたっては、運輸局から微細な修正が入ることが想定されるので、その点をお含みおきいただいたうえで、採決をしていただきたい。

《議案可決》

【議案第3号】廃止代替バス「山川-開聞駅前線」の運行休止について

(以下、質問及び意見)

委 員 乗務員の目途が立てば再開されるというようなニュアンスでよろしいか。

委 員 お見込みのとおりである。

《議案可決》

【議案第4号】令和6年度地域公共交通確保維持改善事業に伴う事業評価について

(以下、質問及び意見)

委 員 資料21ページの、魚見線と尾下線の事業評価について、利用者数の減少に伴い乗合率低下したことを理由にC判定となっているが、この課題に対してどのような解決策を図るかが重要なので、今後の改善点について具体的に検討していただきたい。

委 員 利用客が減少した理由は何か。

事務局 最たる理由としては、利用者の入院、死亡である。

委 員 22ページの下段における、新型コロナウイルスに関する記述については、この表現でいいか、事務局で再検討いただきたい。

¹会議終了後、事務局にて再検討の結果、積み残しが発生した際にはタクシーによる続行便を出す方針を決定した。

《議案を一部加筆修正のうえ可決》

【その他】

委員 指宿市の地域公共交通は非常に厳しい局面に来ていることは、皆さんも恐らく感じていると思う。

いわゆる公共移動サービスの運転手不足や採算性を考えたときに、果たして持続可能な交通網を構築することは、すごく難しいと思う。

私は、公共交通だけを語るのではなく、違う視点から、もっとざっくばらんに、5年後、10年後のためにどうしていくか話す場を作っていく必要があるのではないかな。

事務局 イッシーバスの運行を令和7年度中に他の交通モードに切替を図っていく必要がある。具体的には、地域内フィーダー系統確保維持計画に切り替えるタイミングである10月を目途に、イッシーバスを他の交通モードに転換することを検討したい。

イッシーバスを他の交通モードに転換するにあたっては、指宿市地域公共交通計画に掲げる地域の多様な関係者の共創による持続可能な公共交通体系の構築に沿っていく必要がある。

そのためには、喫緊の課題となっている、バス・タクシーの高齢化による乗務員不足を考慮し、少ない乗務員でも、市民・観光客の移動需要を満たせる体制が必要である。

事務局としては、委員の方々の本日の意見を参考に、今後、交通事業者や地域住民との声を聞いた上で、様々な交通を比較検証し、現段階で適切な方法を検討したい。

今後のスケジュールを逆算で考えると、遅くとも令和7年6月ぐらいまでには、この地域公共交通活性化協議会で諮らないといけないと考えている。

6月の協議会で事務局案をいきなり判断していただくことになるので、この協議会の委員の皆様や、地域の方々の意見が反映されなくなるので、途中である、年度末あるいは年度初めに現時点での状況をお示しして、そしてより精度を高めた交通モードにしていけないといけないと考えている。

協議会を年度末に開催にするには、皆様の日程調整を行わないといけないが、その際には御理解と御協力をお願いしたい。

また、この協議会規約には、分科会を開催するという規定もあるので、この休会中に必要に応じ必要に最低限の人数の方々、委員の方々にお集まりいただき、より詳細な説明を行っていくということも考えている。

当面、来年の10月ぐらいを目途に、公共交通を切替えていくという状況があるので、6月までには再度この協議会でお諮りしたい。